

# 各支部総会報告

## 第18回 県央支部総会

県央支部は5月7日、海老名市文化会館で第18回支部総会を開催し、6名が出席。議事では、①2025年度活動報告(案)、②26年度活動方針(案)を提案し、異議なく承認された。また、続けて行われた記念講演は「糖尿病診療の医科・歯科連携～如何にして連携体制を構築するか～」をテーマに、かなもり内科の院長・金森晃氏が講演。14名が参加した。



金森氏

金森氏は県内では糖尿病治療に関する医科歯科連携が思うように進んでいない現状について氏自身の成功例・失敗例を引きつつ、連携を進めるには何よりも「顔の見える関係を築くこと」の重要性を強調し、医科・歯科間で情報交換しやすい関係づくりが不可欠とした。

## 第49回 横浜支部総会

横浜支部は5月12日、協会会議室にて第49回支部総会を開催し、5名が出席。①2025年度活動報告(案)、②26年度活動方針(案)、③支部幹事選出の件一が異議なく承認された。新たな支部幹事として大塚裕一氏(港南区・医科)が選出された。記念講演は、「神奈川県の海岸線全て歩いてごみ拾い。そこで見えてきた神奈川県と横浜市のあらたなる問題点」をテーマに、NPO法人海の森・山の森事務局理事長/冒険写真家の豊田直之氏が講演し、8名が参加した。



豊田氏

氏は2020年から5年をかけて「プラごみバスターズ」として神奈川の海岸線を歩き、約400Km、累計3tのごみを回収・分別し、ごみの分布のデータ化を行った。横浜・川崎の湾岸エリアでは、中央分離帯は草木が生い茂り、ゴミが不法投棄されている。ここは貨物船を待つトラックが出入りし、休憩場所のない劣悪な労働環境にいるドライバーの現状が背景にあると判明した。横浜市港湾局へ要請行動を重ねた結果、当法人と合同で中央分離帯の除草作業を実施できた。活動を通じてゴミの多さに絶望を感じることもあるが、小さな行動の積み重ねが未来を変えると力強く語った。

## 第27回 湘南支部総会

湘南支部は、5月12日に藤沢商工会館で第27回支部総会を開催。議事では、①2025年度活動報告(案)、②26年度活動方針(案)の議題について異議無く承認された。続いて行われた記念講演は「道でたどる藤沢宿の変遷」をテーマに藤澤浮世絵館・元学芸員の細井守氏が講演し、5名が参加した。



細井氏

講演では、古くから水陸交通の要地として人が集まって形成された「藤沢」の歴史について、▽藤沢宿3町の成り立ちや、江の島道、大山道、厚木道など宿から各方面に延びる道、▽宿の生業を支えた“横町”、▽明治になって開かれた旧宿場と駅を繋ぐ道と新たな賑わいーなど、さまざまな「道」をキーワードにその成り立ちや変遷を地図とスライドを交えて解説した。

## 第59回 相模原支部総会

相模原支部は5月13日、小田急ホテルセンチュリー相模大野で第59回支部総会を開催し9名が出席。記念講演は38名が参加した。議事では、①2025年度活動報告(案)と②26年度活動方針(案)について提案し、異議なく承認された。記念講演は、相模原支部幹事でさがみ協眼科・内科 内科部長の牛山元美氏が「医療者が知っておきたいPFASの話」をテーマに講演した。



牛山氏

氏ははじめに、PFASの由来や分子構造とその特徴について解説。工業的に有用ではあるものの、環境残留性が高く生体に悪影響を及ぼす可能性があり、PFASの血中濃度が高いことで▽子どもの免疫力低下、▽低出生体重児の増加、▽大人の甲状腺疾患やコレステロール値の上昇、▽前立腺がんの増加一等の影響が指摘されていることを解説した。また相模原市や座間市等、米軍基地周辺の水質汚染を取り上げ、県民や相模原市民にとって身近な問題であることを伝えた。講演の最後には、医療者として是非とも自治体や国にPFAS汚染への対応を働きかけてほしいと訴えた。

なお、同記念講演は公害環境対策部と共催し、県内全域の会員へ案内を送付した。\*協会HPで動画配信中

## 第28回 横須賀支部総会

横須賀支部は5月19日、第28回支部総会ならびに総会記念講演会を横須賀市産業交流プラザ第2研修室とWEB併用で開催した。総会議事に現地8名・WEB5名、記念講演には現地8名・WEB21名が参加した。①2025年度活動報告(案)と②26年度活動方針(案)について提案し、異議なく承認された。



勝亦氏

記念講演では協会事務局・勝亦琢磨主幹が講師を務め、「医療DXで今後どうなる!? 医療機関が知っておきたいこと」と題して講演を行った。氏は内閣府が公表した文書「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画」の中で、政府がヘルスケア産業を成長分野として拡大し、「100兆円市場」の形成を目指す構想を紹介した。同文書の中で「保険外併用療養費制度の対象範囲拡大」や「多様な民間保険商品の開発」が挙げられている点、また、既に着々と法整備が進められている現状に警鐘を鳴らした。医療DXの名のもとにクラウド上に収集されたデータが患者の知らぬうちに民間企業に提供され、保険外サービスの開発、最終的には公的保険の縮小に繋がる構造転換への懸念を示し、結局のところ、一般市民の負担が増すことになるのではないかと注意を促した。

\*協会HPで動画配信中

## 第45回 鎌倉支部総会

鎌倉支部は5月22日、第45回支部総会を鎌倉生涯学習センターにて開催。総会議事に2名、記念講演には10名が参加した。議事では①2025年度活動報告(案)、②26年度活動方針(案)を提案し、異議なく承認された。



位高氏

記念講演は株ハイクラス代表取締役・神奈川産業保健総合支援センター産業保健相談員の位高駿夫氏が「転倒・腰痛対策による安全な職場づくりを目指した運動の理論と実践」をテーマに講演。氏はまず、便利な環境を生きる現代人は日常的な身体活動が不足しており、その影響は職場での転倒や腰痛にも及んでいるとした。労災を減らすためには環境の改善のみならず個人レベルの改善も必要だとし、筋力アップに繋がる簡単な運動を紹介。また、運動不足で引き起こされるロコモティブシンドローム(運動器症候群)は「加齢のせい」と放置するケースが多く、要介護や寝たきりに繋がりやすいとした。最後に、運動の実践効果は身体的・精神的・経営的な健康であるとし、ぜひ運動を生活の中に取り入れてほしいと語った。

\*7月6日(月)まで期間限定で公開中

## 第56回 川崎支部総会

川崎支部は5月25日、第56回支部総会を川崎市医師会館で開催。議事には7名、記念講演には13名が参加した。議事では①2025年度活動報告(案)、②26年度活動方針(案)について提案がなされ、いずれも異議なく承認された。



陶山氏

記念講演は昨年参加者に非常に好評だった「やさしく学ぶ、こころの漢方」の続編を開催。かえるメンタルクリニックの院長・陶山亨氏が再び講師を務めた。氏は精神科治療において、標準的な向精神薬による薬物療養は様々な理由で難しい場合も多いとし、漢方が得意とする症候「イライラ・怒り」、「不眠」、「不安といわゆる不定愁訴」、「女性特有の不調」で処方される漢方を紹介した。また、理論が難しいと漢方を遠ざけるのではなく、病名処方でもよいので思い切って処方してほしいと述べた。

## 「新聞投稿」募集中!



会員からの投稿を随時募集しています! 文字数は800字程度。ご不明点は新聞部まで(☎045-313-2111 FAX045-313-2113)。メールアドレス: kanahoi-shinbun@hoken-i.co.jp ※内容によっては加筆・修正をお願いすることがございますことをご了承ください。